
令和 6 年能登半島地震に伴う 被災自治体支援に関する アンケート調査結果の概要

令和 7 年 3 月 17 日

環境省関東地方環境事務所



調査概要

調査の目的

- ・ 災害廃棄物処理等広域連携体制検討委員会において、ブロックを超えた支援体制の在り方等を検討するための基礎資料とするため。

調査の方法

- ・ アンケート調査（電子メール）

調査対象期間

- ・ 回答者の派遣期間：24/02/25～24/08/24

調査対象

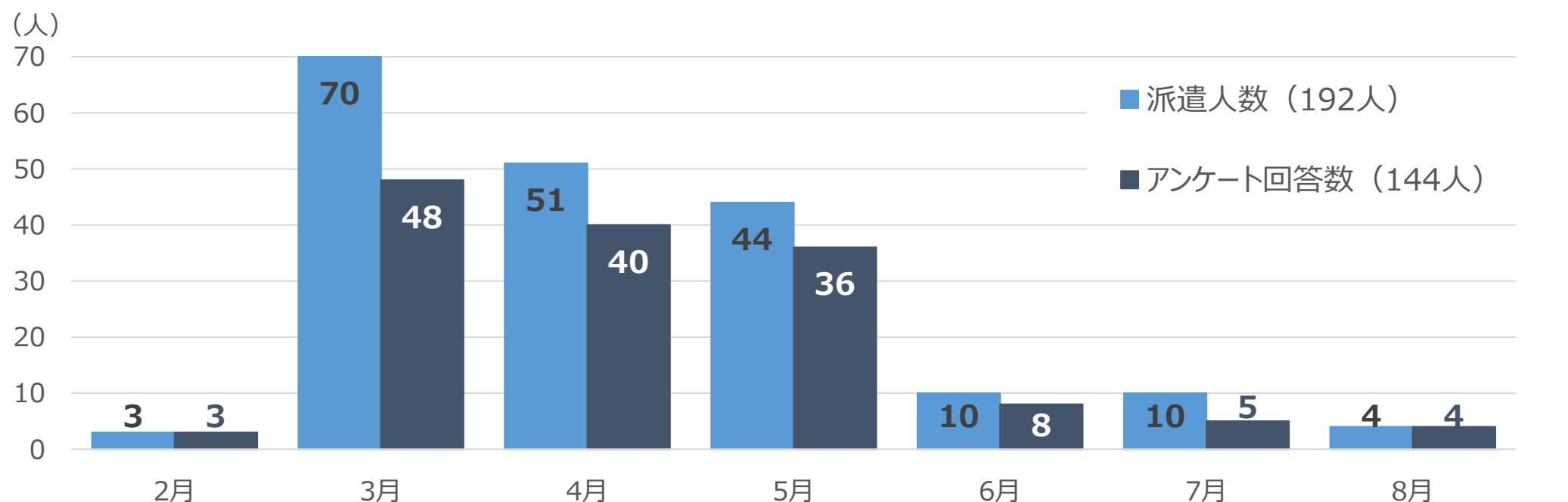
- ・ 令和6年能登半島地震に伴う被災自治体支援に御協力をいただいた自治体（組織）
- ・ 令和6年能登半島地震に伴う被災自治体支援に御協力をいただいた自治体の職員

回答総数

- ・ 【組織】46/64→72%（都県：2/5、市区町村：44/59）※1
- ・ 【職員】144/192→73%※2

※1:回答数/支援数→回答割合

※2:複数回支援された方は重複集計

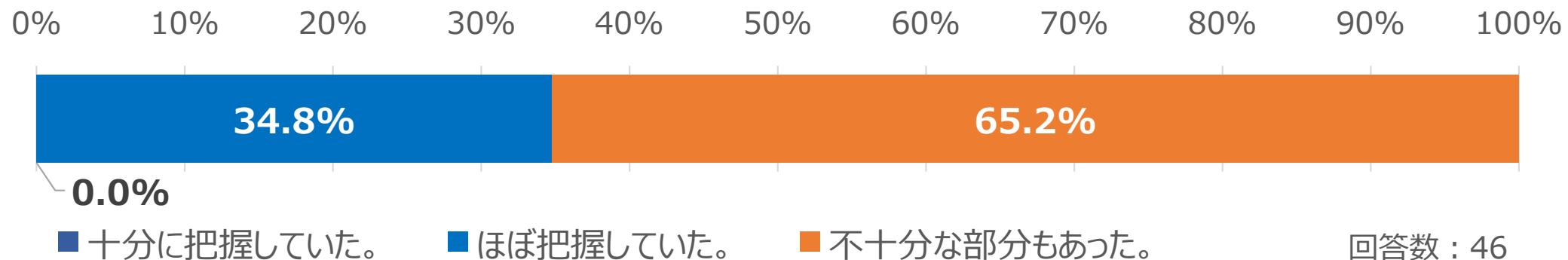


調査内容（組織）

項目	質問内容	形式
1	職員を派遣する自治体の被災状況及び必要な支援業務の内容について事前に把握していましたか。	選択式
2	職員を派遣するにあたり組織内で調整した事項を記載してください。	記述式
3	職員を派遣するにあたり特に課題となった事項がありましたら記載してください。	記述式
4	今回、派遣（支援）期間を原則7泊8日としましたが、この期間は、適切でしたか。	選択式
5	ブロックを超えた人的支援に関して事前の取決め（マニュアルなど）は、必要でしょうか。	選択式
6	その他ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由に記載してください。	記述式

調査結果概要（組織）

1. 被災状況及び必要な支援業務の内容について事前把握状況



自由回答抜粹

【不十分な部分もあった】

- ・ ネットやニュースで報道されている情報以外の**情報提供が必要**だと感じた。
- ・ **事前説明が不十分**だったため、必要な用具が不明確で準備できなかった。
- ・ **支援内容が事前説明と現地到着後で異なっていた。**

【ほぼ把握していた】

- ・ 先に派遣された自治体から情報共有があった。

調査結果概要（組織）

2. 派遣に伴う組織内の調整事項

調整事項

- | | |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 派遣 | <ul style="list-style-type: none">宿泊先と交通手段。支援内容の確認、必要書類の手配。 |
| 庁内 | <ul style="list-style-type: none">庁内への派遣希望者の募集。旅費及び交通費の予算調整。派遣される職員の通常業務の割り振り。 |

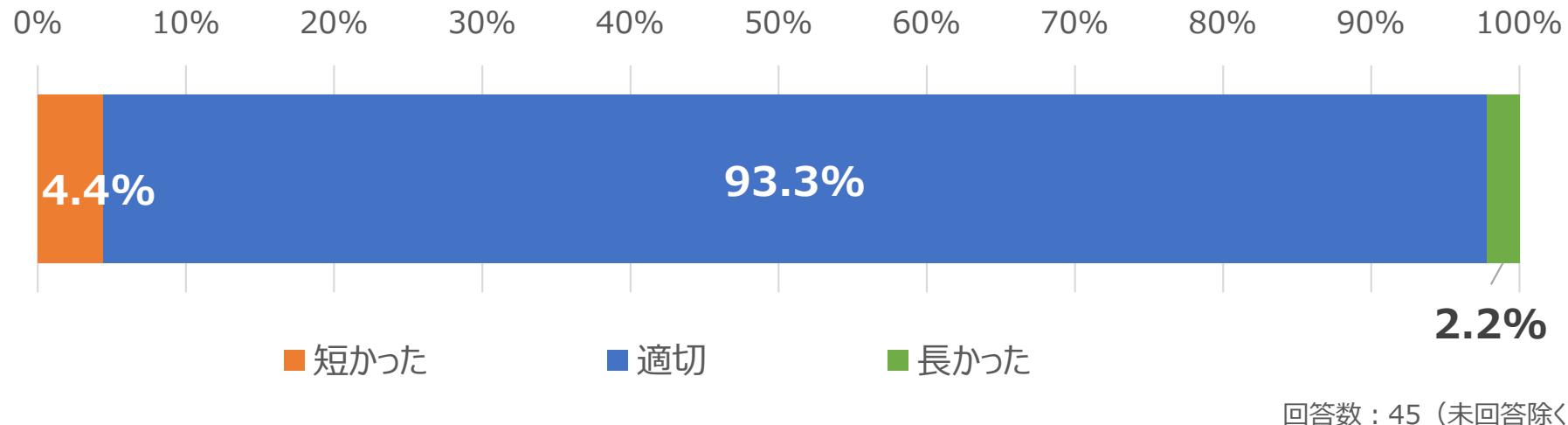
3. 派遣に伴う課題事項

課題事項

- | | |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 宿泊先、通勤 | <ul style="list-style-type: none">派遣先周辺での宿泊先の手配。（派遣者の健康面等を配慮し、ビジネスホテル限定で探していた）派遣先への通勤が長距離。派遣者の中には運転免許証を持っていない職員もいたため、宿泊先の調整が困難。レンタカーの活用が通常では認められていないため、活用するための了承に時間を要した。 |
| 体制 | <ul style="list-style-type: none">庁内他職員の残業時間が増加した。災害対応経験がない職員を派遣することへの不安。 |

調査結果概要（組織）

4. 派遣期間の適切度



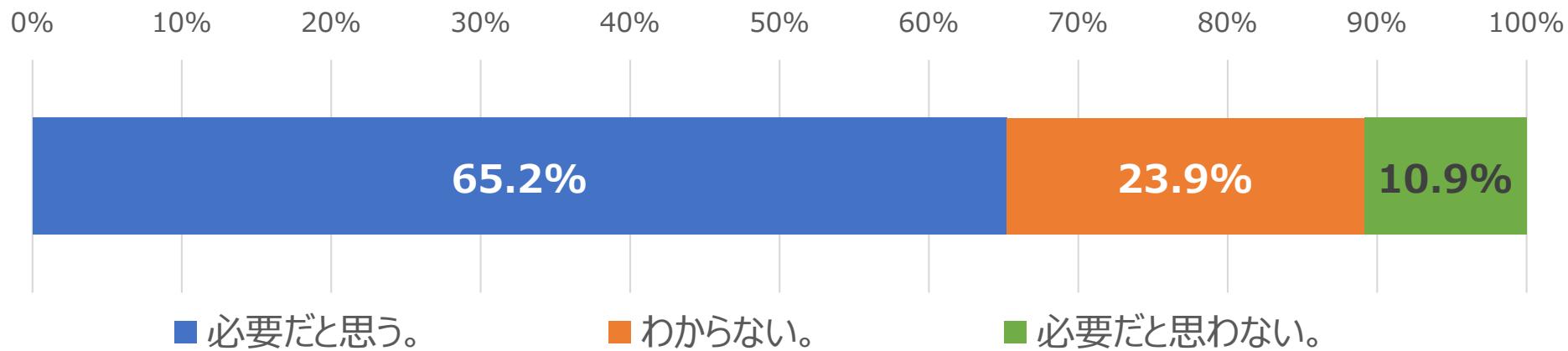
自由回答抜粋

【組織】

- 派遣者の健康面、所属組織の通常業務を鑑みると**1週間程度が適切**。
- 職員を派遣した課に府内で職員が補填されないと、1週間以上の支援は通常業務の支障が大きいため派遣することが出来ない。職員が補填されるには半年以上支援に入る期間が目安ではないか。

調査結果概要（組織）

5. 事前の取決め（マニュアルなど）の必要性



回答数：46

自由回答抜粋

【支援業務】

- 想定される支援項目を一覧で整理し、支援内容と必要備品等は明確に示してほしい。
- 支援内容や従事期間が明確になっていると府内での説明がしやすい（支援希望者を募集しやすい）。
- 関東ブロックと他ブロックで取り決め内容は統一するべきではないか。

【その他】

- 宿泊先と交通手段の手配については明確なルールが必要ではないか。
- 派遣自治体に偏りがないよう調整するべきではないか。
- 発災初動期は他ブロックからの支援が必要ではないか。（支援が必要な被災自治体の同ブロックの隣自治体も少なくとも被害はあるはず）

調査結果概要（組織）

6. その他要望

その他要望

- ・ 支援自治体の負担とならないよう支援に要する経費の取り扱いについて検討が必要ではないか。
- ・ 総務省の職員派遣と並行して支援依頼があった。その他支援制度との棲み分け。
- ・ 派遣先で事故が起きてしまった場合の派遣元の対応が不明確。

調査内容（職員）

項目	質問内容	形式
1	支援先自治体名及び支援期間を選択してください。	選択式
2	支援期間は適切でしたか。	選択式
3	支援に入るにあたり事前に準備した事項を記載してください。	記述式
4	実際に行った支援内容について記載してください。	記述式
5	支援の際に心がけたことがありましたら記載してください。	記述式
6	その他ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由に記載してください。	記述式

調査結果概要（職員）

1. 支援先自治体名及び支援期間

【支援先】

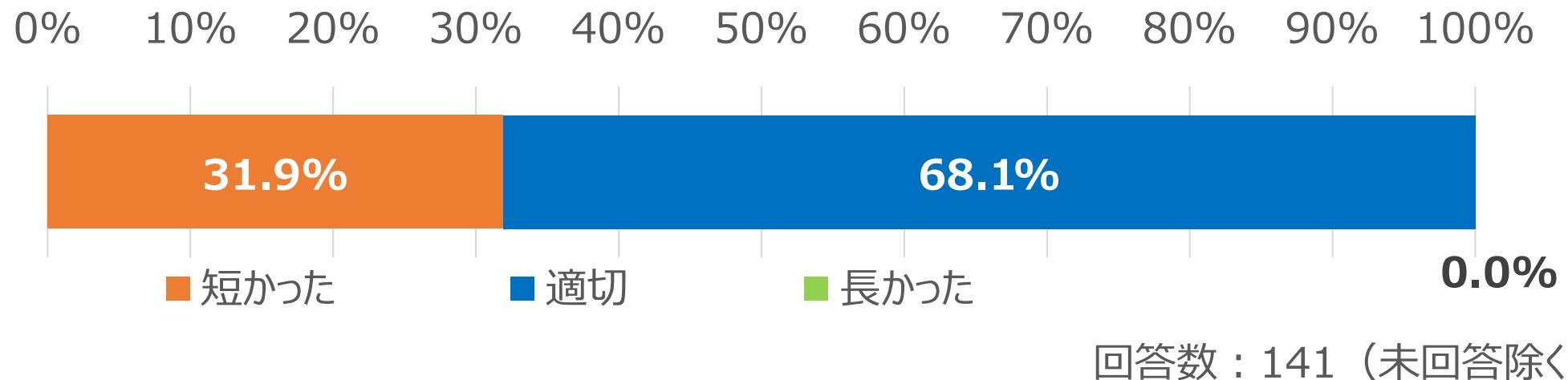


【支援期間】



調査結果概要（職員）

2. 派遣期間の適切度

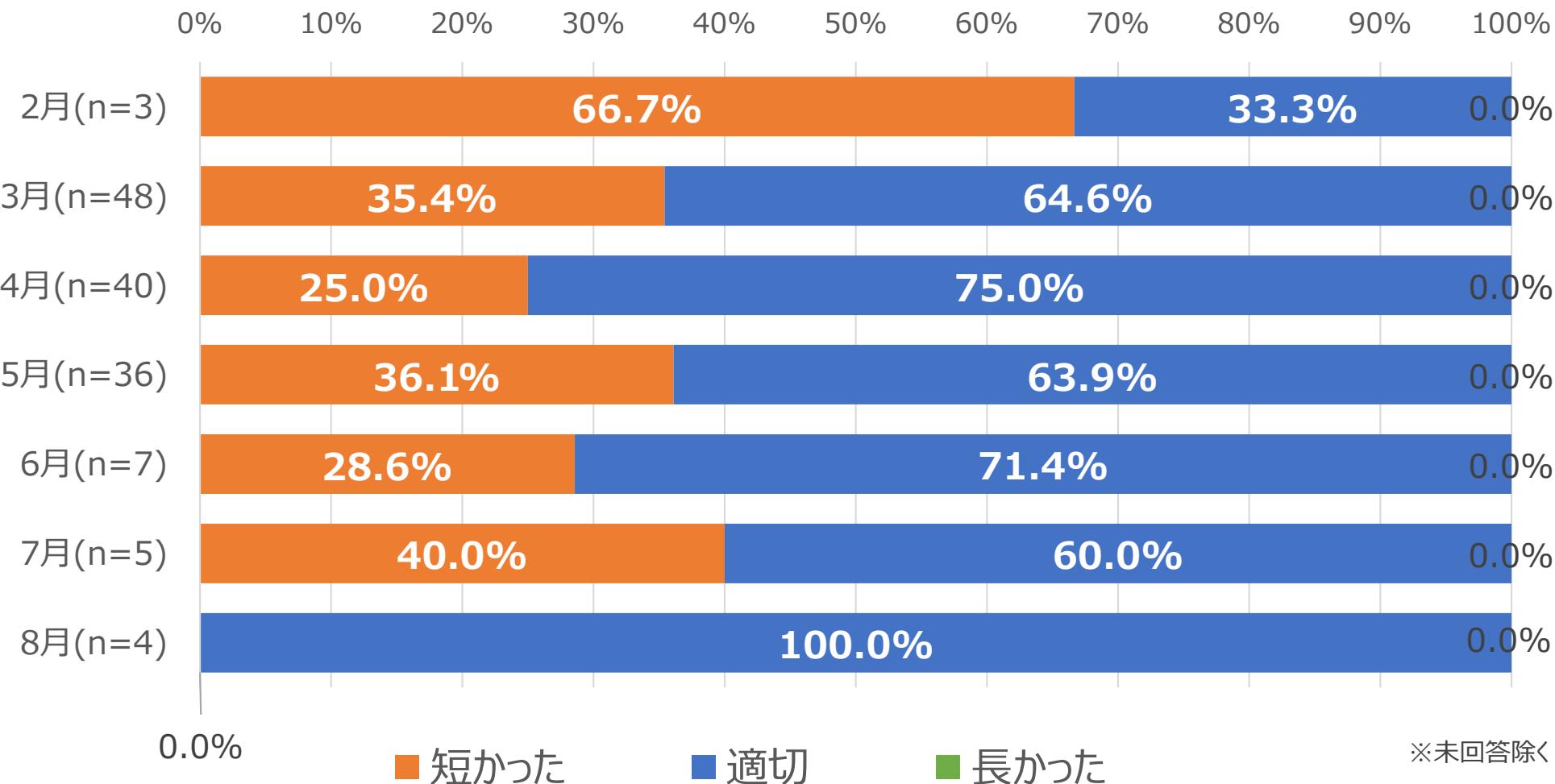


自由回答抜粹

- 通勤時間が長くなるため、**1週間程度が適切**。（車通勤で片道2時間程度かかっていた）
- 発災直後の混沌とした状況では**1週間未満の支援が適切**ではないか。
- これまで経験していない業務（公費解体）だったため、**1週間では業務に慣れた頃に支援が終わってしまい短い**と感じた。
- 住民とやり取りする業務（公費解体の受付等）は**比較的長期間の支援の方がよい**のではないか。
- 派遣期間が**1週間では引継ぎの負荷が大きい**のではないか。
- 支援先の環境が整い、支援内容も明確になっている時期は**1週間以上の支援が望ましい**のではないか。

調査結果概要（職員）

2. 派遣期間の適切度（派遣月毎）



調査結果概要（職員）

3. 支援に伴う準備事項

準備事項

業務関係

- ・ 国のマニュアル。「公費解体・撤去マニュアル」環境省、「災害に係る住家の被害認定」内閣府
- ・ 先遣隊の引継ぎ資料。
- ・ ネット等で公開されている被災地の被害情報。

4. 支援内容と支援に伴う課題事項

支援内容

公費解体

- ・ 公費解体申請の受付業務。
- ・ 公費解体・自費償還制度に関する事前相談窓口。
- ・ 公費解体のデータの入力、現場立ち合いのアポどり。

その他

- ・ 仮置場での荷下ろし補助。
- ・ 非住家の被災家屋調査。

支援に伴う課題事項（自由記載抜粋）

準備

- ・ **現地入りするまで支援内容が不明確**で事前準備が不足した。
- ・ 支援に伴う必要備品の一覧。
- ・ 現地の移動手段は環境省が一括で用意してほしい。
- ・ 被災自治体独自のマニュアルがある場合は支援前に共有してほしい。

支援業務

- ・ **事前説明で受けた支援内容との乖離。**
- ・ 派遣者の入替期間の発生（全支援員が支援初日になる）。
- ・ 支援者の入替があるため、窓口対応が統一できない。（前回申請と説明内容が違うとクレームを受けた。）

調査結果概要（職員）

5. 支援の際に心がけたこと

心がけたこと

被災職員

- ・ 被災職員への質問は最小限に止めるように意識した。
- ・ 依頼された支援内容以外にも力になれることがないか気配りできるように意識した。
- ・ 支援者間で支援内容に差が出ないように引継ぎ資料は詳細に記載するように対応した。

被災住民

- ・ 被災者に寄り添った受け答えを意識した。
- ・ 挨拶や申請以外でもコミュニケーションをとるように意識した。

6. その他要望

その他要望

- ・ 支援期間を長期にする場合は休暇がないと体力的に支障が出る。
- ・ 家庭があるため長期の支援は難しい。
- ・ 支援先での食費補助。
- ・ 環境省が手配した宿泊先は女性職員を派遣しづらい。

(別添) その他支援制度の支援者の回答

D.Waste-Net（全都清）による収集支援

派遣期間の適切度

- ・ 長時間の運転で疲労が溜まるため 1 週間程度の支援が限界。
- ・ ごみがたくさん残っていたため、支援期間を長くしてもよいと考えるが、休暇日を設けないと精神的にも肉体的にも支援継続は難しい。

課題事項

- ・ 宿泊先が他の支援制度の支援者と同部屋で、生活リズムが違ったため気を遣う必要があった。（収集支援は早朝から支援が開始されたため）
- ・ 初動期の支援で回収ルートに課題が多かった。
- ・ 長時間運転したこと、宿泊先の敷布団が薄かったため腰痛になった。